情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」令和２年度第１号 通巻 173 号

IDDNewsletter 4

2020 April

特集

「上から目線」は「デザイン目線」

～情報デザイン科での学びから見えてくること～

約１ヶ月におよんだ臨時休業から明け、今年度もいよいよスタートします。
今年度は１名の新入生を迎えることとなりました。人数は少ないですが、とても新鮮な雰囲気となっています。
今回は、年度の区切りのような特別な機会でなければ著しづらいようなこと、例えば、「デザインとはそもそも何か」といったことについて改めて考えてみます。

特集

「上から目線」は「デザイン目線」

～情報デザイン科での学びから見えてくること～

**約１ヶ月におよんだ臨時休業から明け、今年度もいよいよスタートします。
今年度は１名の新入生を迎えることとなりました。人数は少ないですが、とても新鮮な雰囲気となっています。
今回は、年度の区切りのような特別な機会でなければ著しづらいようなこと、例えば、「デザインとはそもそも何か」
といったことについて改めて考えてみます。**

例えば、「上から目線」という言葉があります。

この言葉は、決してポジティブなイメージには使われないように思います。ポジティブの対義語はネガティブですが、ネガティブというよりも、もっと明確に否定的な意味で使われることが多いのかもしれません。

特に昨今は、新型コロナウィルス感染症対策において、未知との戦いが強いられています。日々の生活さえ見通せない中では、どうしてもスケープゴートとしての「お上への批判」が目につくようになります。スマートフォンで Yahoo ！ニュースを覗けば、新型コロナウィルス関連の記事のコメントには、国や自治体の政策への批判が溢れかえっています。そこで必ず目にするのは、苦しむ下部構造、抑圧する上部構造、そして、その比喩としての「上から目線」という言葉です。

一方、「リーダーシップ」という言葉も多く目にします。「もっとスピード感をもってリーダシップを発揮せよ！」といった具合です。

しかし、よく考えてみれば、実はこの２つの言葉は、ほぼ同じことを言っていることに気づきます。違うのは、それぞれの言葉の属性が「ポジティブ」なのか「ネガティブ」なのかの違いです。言い方は悪いかもしれませんが、人々はその時々の自分の都合で、同じ意味でも印象を変えて伝えようとする傾向があるのかもしれません。もちろん、私の中にも、無自覚であるだけで、そのような何かがあることを否定することもできませんが。

情報デザイン科における学びの中心にあるデザイン行為は、誤解を恐れずに言えば、常に「上から目線」です。

デザイナーは常に１人です。もちろん複数のチームでデザインすることもあるでしょうが、それでも１つのチームの持つ思考がものづくりの段階に向かってトップダウンされるプロセスは同じです。そのプロセスを経ることで、はじめて思考は形となります。思考は言葉によって構成され、形は現実世界に存在する要素だとすれば、「言葉には現実を生み出す力がある」と換言することもできるでしょう。

その具体は、アップル社の iPad や iPhone、iMac 等のプロダクトにも感じることができます。情報デザイン科の実習で主に使用しているコンピュータは、iMac や Mac_mini 等のアップル社製のものが大半ですが、過去に在籍していた修了生も含め、情報デザイン科の学生は、相対的に MacOS の操作性の良さを支持する方が多いように思います。

私がアップル社の製品にすごさを感じるのは、新製品に搭載される機能について、これは流石に時期尚早ではないか、また、これはいらないんじゃないかと思うことでも、10 年も経過すると、他社製のものを含め、ほぼ全てのコンピュータが同じような機能を持つようになることです。たいていは、それを「先見性」と言うのでしょうが、アップル社の製品は、自社の外側の領域の時間を見越すというよりも、むしろ、自分たちが作った空間を先達の知識として未来において体系化するのだという「デザインポリシー」を感じます。

MacBook から DVD-ROM のドライブがなくなったときには、「これからどうやって映像を見ればいいんだ？」と思ったものですが、クラウドがこれだけ普及した今、物理的なドライブがあるコンピュータに出会うと、そこから希少価値を見出す感覚にさえ襲われるようになりました。

デザインポリシーとは、自分たちの考えた構造で世界の有り様を変えるということなのかもしれません。利用者には試行錯誤する余地を与えないけれども、その枠組みの範囲内でさえあれば、拡張という名の無限の自由が与えられることになるわけです。もちろん、これは、なにもアップル社の製品の話にとどまるものでは無いわけですが。

Web ページの開発においてもそうです。HTML をゼロからベタ打ちすれば、何も制約を受けないコーディングができるかもしれませんが、自分の作りたいものがそれで実現できる保証もありません。むしろ、HTML の使用範囲を規定するように、WordPress や NetCommons 等の CMS のフレームワークが準備されることで、その枠組が準備した範囲内でさえあれば、利用者には究極の自由が保障されるわけです。逆に、その枠組の外側にあるものを求めるときには、究極の不自由が待っていることになるわけですが。

そう考えていくと、「上から目線」なのかどうかの判別の基準は、その意思決定のプロセスや態度というよりも、そこで示される価値が使いやすく、心地よいものであるかどうかについての印象に近いものでしょう。そしてその印象は主観的なものである以上、それぞれの「使いやすさ」「心地よさ」を持ち寄り、最大公約数を抽出したとしても、それは誰にとっても「使いにくい」「心地よくない」ものにしかなりません。

振る舞いではなく、枠組みを作るということは、ある意味自由に動けることの限界を合理的に自らが定めることとも言えます。それをポジティブに言えば、「しっかりと目標を持つこと」であり「責任感を持って仕事をすること」ともなるのでしょう。目の前の対象を照合するためのフレームワークが無いところには、結局、思考も学びも生まれません。

緻密に計算されたフレームワークは、究極の「上から目線」であり、至高のデザインです。たとえ、それが心地よさを誰にも与えないデザインだったとしても、デザイン行為自体が否定されるものではありません。民主的な話し合いがデザインの質を向上させるのではなく、デザイナーの思考力や発想力がデザインの質を向上させるのです。人々の生活における意思決定の手がかりは、無意識に人々の体の中に取り込まれています。そのような主体的な思考や判断の手がかりとなる枠組みを作るのがデザイナーの役割とするなら、デザイナーの仕事は「上から目線」を通して、ある限られた空間に価値を生み出す活動そのものと言えるのかもしれません。

そう考えると、「上から目線」の無いところには、自由も思考も学びも生まれないことになります。

どのような職種でも、現業に携われば、事あるごとに「何をえらそうに」「現場を知っているわけでもないくせに」と言いたくもなることが多々あります。しかし、そのような言葉と思考を自由に生み出すことができるのは、結局、母語とその背景にある文化という、それこそ「上から目線」のフレームワークのおかげであることについて、私達はもっと自覚的になるべきではないでしょうか。

その気づきのヒントが情報デザイン科の活動にはたくさん隠されています。

今年度も学生の皆さんの精いっぱいの活動に期待します。

IDDN

Contents

2-3 特集
「上から目線」は「デザイン目線」
～情報デザイン科での学びから見えてくること～
約１ヶ月におよんだ臨時休業から明け、今年度もいよいよスタートします。
今年度は１名の新入生を迎えることとなりました。人数は少ないですが、とても新鮮な雰囲気となっています。
今回は、年度の区切りのような特別な機会でなければ著しづらいようなこと、例えば、「デザインとはそもそも何か」といったことについて改めて考えてみます。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

今年度もまた各月ごとに発行して参りたいと思います。皆様、温かく見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

今年度は１名の新入生が入学してきました。２学年と合わせて３名となります。今年度は、少々寂しい感じもありますが、また昨年度とは違った新鮮な雰囲気を感じることができます。

情報デザイン科ではデザインの専門的で実践的な知識と技術を身に付けさせ、社会で活躍できる人材を育成するべく、スタッフ一同、力を合わせて指導して参ります。

○入学説明会の御案内

情報デザイン科では、次年度の入学説明会を６月５日金曜日に予定しております。

詳細については、後ほどWebページ上で情報を公開し、公開した旨の御案内を各関係機関に電子メール等にて送付させていただきます。

美術・デザイン等の造形分野の学習に興味を持たれている高等学校や高等部に現在在籍する方、または過年度生の方がいらっしゃいましたら、ぜひ御参加いただければと存じます。

また、説明会の開催に合わせ、個別の教育相談等の御希望がございましたら対応いたしますので、お気軽に御相談いただければと存じます。

また、高等学校または高等部１年生、２年生の方の御参加も歓迎いたします。

皆様の御参加をお待ちしております。

［お問い合わせ先］
北海道高等聾学校　専攻科情報デザイン科
電子メール　koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp
電話 0134-62-2624　ファックス 0134-62-2663
（担当：桑原）

情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department
IDDNewsletter
April 2020 4

IDD**Newsletter**　April 2020

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム
発行／北海道高等聾学校
〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1
www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記Webページより電子メールでご連絡ください。